



校訓 よく学び よく遊べ

学校教育目標「ふるさとを愛し、社会に役立つ人間」

令和6年2月6日
五島市立嵯峨島小中学校
校長 NO,22

人に触れ 本物に学ぶ 人権講話

五島市在住で長崎県身体障害者福祉協会連合会会長の土岐達志さんをお招きし、人権講話をしていただきました。内容は、東京2020パラリンピックで発足した「WeThe15」に始まり、「障害って何だろう」、「障壁のない社会づくりのために」と充実した1時間でした。

「WeThe15」とは、スポーツ、人権、政策、コミュニケーション、ビジネス、芸術、そしてエンターテインメントの世界中の国際組織を史上最大規模で結集させ、今後10年間で変化を起こしていくことを掲げた取組です。

また、ホームページでは、すべての障害のある方が伸び伸びとアクティブに、インクルーシブな社会で生きていけるよう活動していくことを宣言しています。



児童の感想

○ 土岐先生の話聞いて、目が見えない方や心臓がわるい方など、いろいろな障害がある方々がいるということを改めて知ることができました。世界には七人に一人の割合で障害のある方がいるということやヘルプマークをつけていると体に障害があるという意味を表しているんだということを初めて知ることができました。私は、これからの生活で障害のある方がいたら、しっかりと「何か手伝えることはありませんか。」と優しさのある言葉かけをしたいなと思いました。

○ 障害には、いろんなものがあることを初めて知りました。いろんな人が一緒に暮らせるようにスロープや点字ブロックがあることも知りました。

土岐先生は、障害がある方のために、駅にエレベーターをつけたり、お店のドアを自動ドアに変えてもらうよう関わったりしていてすごいなと思いました。障害がどんなことなのかも知ることができたの

でよかったです。外には見えない障害のある方を分かりやすくするためにヘルプカードがあるということを知りました。これから私は、ヘルプカードを持っている人がいたら声をかけていきたいと思いました。

○ 土岐先生の話聞いて色々なことを知りました。手足、目などが不自由な方のために今は自動ドアやエスカレーター、点字など色々な取組が行われていることを知ることができてよかったです。そして僕たちは、走ったり、遊んだりなんでもできるけど、障害のある方はできないことがあることも知りました。これからは体が不自由な方が困っていたら自分から声をかけて、何かできることはないか考えながら生活していきます。

嵯峨島ミニディとの交流

児童がタブレットを活用して作成した成果物を嵯峨島ミニディのみなさんにお届けしていることを以前の学校だよりでお知らせしました。



今回、「地域の人々との関わりをさらに見つめよう」とのねらいのもと、直接訪問し、総合的な学習の成果を発表したり、一緒にカルタを行ったりして交流を深めることに取り組みました。

当日は、みみらくの里の担当者以外に本市の長寿介護課の職員2名も来島し、多くの方が児童の活動を見守ってくれました。活動後、「地域の方とゆっくりとふれあう時間がなかなかないので、発表を聞いていただいたり、ゆっくりとお話をしたりすることができてよかつ



たし、本当に楽しかったです。」と感想を述べるなど、二人とも有意義な時間を過ごすことができました。